

# ちから スポーツの力 ～する・みる・ささえる～

レクリエーションスポーツ「モルック」をご存じですか？

「モルック」はフィンランドの伝統的な「キック」というゲームを元に1996年に開発されました。日本でも新しいスポーツとして注目されています。

モルックという木の棒を順番に投げていき、スキttlという1から12の数字が書かれた木製のピンを倒し、先に得点が50点ピッタリになった方が勝ちとなります。スキttlは倒れた場所で立て直していくのでゲームが進むとどんどん広がり、倒すのが難しくなっていきます。

また、対戦相手に先に50点を取らせないように作戦を考える楽しさもあり、チームのみんなで「次は何番を狙う」「この点数のスキttlは危ないから遠くへ飛ばそう」とわいわい話しながら楽しくプレーができます。

「やってみたいけど、ルールがわからない」そんな場合は、スポーツ推進委員が指導します。また、しらすぎ運動公園では道具の貸し出しを行っています。

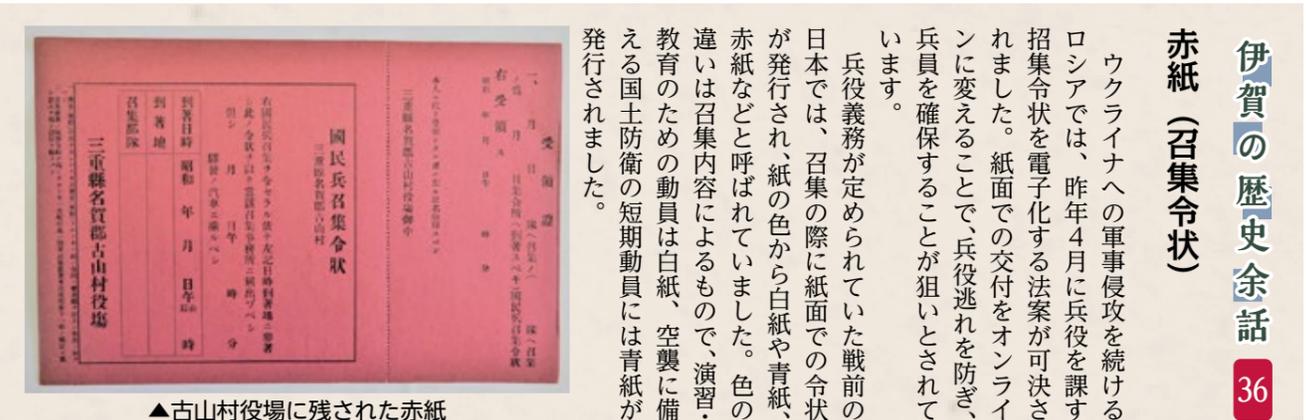
地域の交流会などのちょっとしたレクリエーションとして、皆さんで楽しく遊んでみてはいかがでしょうか。



(一社)モルック協会

### 【問い合わせ】

- スポーツ推進委員の派遣に関すること  
スポーツ振興課  
☎ 22-9635 FAX 22-9694  
✉ sports@city.iga.lg.jp
- 道具の貸し出しに関すること  
しらすぎ運動公園 ☎ 24-1182



▲古山村役場に残された赤紙

## 伊賀の歴史余話 赤紙(召集令状) 36

ウクライナへの軍事侵攻を続けるロシアでは、昨年4月に兵役を課す召集令状を電子化する法案が可決されました。紙面での交付をオンラインに変えることで、兵役逃れを防ぎ、兵員を確保することが狙いとされています。

兵役義務が定められていた戦前の日本では、召集の際に紙面での令状が発行され、紙の色から白紙や青紙、赤紙などと呼ばれていました。色の違いは召集内容によるもので、演習・教育のための動員は白紙、空襲に備える国土防衛の短期動員には青紙が発行されました。

召集令状の代名詞となった「赤紙」が使用されるのは、戦時に陸軍が予備役などの在郷軍人を動員する場合です。そのため戦地へ赴くことに直結する令状といえます。

かつての古山村役場に残された赤紙を見ると、表面に募集すべき日時と場所、召集部隊の名前を記す欄があり、ミシン目で受領証を切り離すように作られています。

赤紙は、役場の兵事係などが本人の家まで届けていました。届けられるのは、軍事機密のため夜間が多かったそうです。そして、赤紙は集場所に出頭する際に持参する必要があったため、本人の手元に残ることがありませんでした。

伊賀町郷友会が刊行した戦後五十年記念誌『平和への足跡』には、赤紙が届けられた場面が克明に記されています。「今晚は」と「おめでとう」の言葉の後に「ご苦労さまです」と渡される赤紙、受け取る妻の震える手の記憶です。

紙切れ一枚で人びとを戦地へと送る国家、その一枚の紙さえ直接、届けることのない現在のロシア、いずれにせよ人命の尊さを軽んじる戦争というものに戦慄を覚えます。

文化財課歴史資料係  
☎/FAX 41・2271

## 明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

### 多面的な価値観～混沌は幸せだった～ 一島ヶ原支所一

古代中国の思想書『莊子』に「混沌、七竅に死す」というお話があります。

目、耳、鼻、口がない混沌さんに、友人2人が目、耳、鼻、口を作ろうとしたところ、混沌さんが死んでしまうという話です。

友人2人は混沌さんにも自分たちと同じように目、耳、鼻、口があった方が「幸せ」でその方が「良い」と考えて行動したと思います。しかし、それが混沌さんを「不幸」にしてしまいました。

いろいろな教訓が読み取れる話ですが、私は「一方的な価値観でよし悪し、幸不幸を決めつけて、他者に押し付けてはいけない」という教訓だと思います。

自分自身の言動や見聞きしたことを振り返ってみると「一方的な価値観」で決めつけてしまっている場面が多々ありました。

「あの人は結婚できて幸せだ」、「子どもが生まれ

て良かった」、「成績が良いあの子が進学校へ行くことができて良かった」その言葉の中には、それとは反対にそうでないことは「悪い」、「不幸だ」と考える「一方的な価値観」を含んでしまっていないでしょうか。そして、それを他の人に押し付けていないでしょうか。

「幸せ」や「不幸」は一つの尺度では測れないものです。「一方的な価値観」に振り回されると他人だけでなく自分も傷つけてしまいます。学校の成績が悪いと落ちこんだり、結婚しなければと焦ったり、「一方的な価値観」に当てはまらないことで、生きづらさを感じたことはないでしょうか。

みんなが生きづらさを感じなくて良い社会にするためには、「一方的な価値観」で物事を判断せず、「多面的な価値観」を知り、自分自身の意識や考え方を新しくしていくことが大切だと思います。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ

## IGAMONO セレクション No.52



### くノ一家名物 伊賀牛焼肉丼

伊賀米の上に炒めた玉ねぎ(収穫時期は伊賀産)のをのせ、伊賀牛の中でも特に脂のおいしいバラ肉のスライスを使い、伊賀産の醤油で調合した調味料で味付けをし、丼に仕上げています。

伊賀牛のおいしさ、伊賀米のおいしさが一段と際立つ一品です。



株式会社くノ一家 スタッフ

創業当時から伊賀産食材にこだわり、伊賀牛と伊賀米の献立を手ごろな価格で、たくさんの観光客に召し上がっていただけてきました。伊賀の発信拠点として伊賀産

品の販売や、伊賀産の食材を使った飲食を提供していきたいと思えます。



【問い合わせ】 株式会社くノ一家 ☎ 41-0901

■伊賀ブランド推進協議会事務局(商工労働課) ☎ 22-9669 FAX 22-9695